

国立大学法人 長岡技術科学大学
平成22年度第3回（第33回） 経営協議会議事要旨

日 時 平成22年6月25日（金） 13時30分から15時
場 所 KKRホテル東京 丹頂の間
出席者 新原議長，東委員，江口委員，木谷委員，河野委員，斎藤彬夫委員，神野委員，
山崎委員，武藤委員，高田委員，宮崎委員，渡邊委員，中村委員，斎藤秀俊
委員（議事の表決の委任による出席者：池田委員，早瀬委員，宮下委員）
陪席者 植松附属図書館長，平山監事，丸山監事
事務局 総務部長，総務課長，財務課長，総務課副課長，財務課副課長，予算係長，
吉田予算係員，総務係長，企画・評価係長，総務係主任

議事に先立ち，第32回議事要旨（案）について説明があり，案のとおり承認した。

審議事項

- 1 平成21事業年度に係る業務の実績及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）及び第1期中期目標期間事業報告書（案）について
武藤委員より資料1-1，1-2に基づき説明があり，審議の結果，これを承認した。
主な質疑応答は次のとおり。
 - 高専との連携事業についてはよくやっていると思うが，高専の学生にとって，高専と技科大の関係が教育内容からいえば密接な関係にあるという認識が薄れているのではないか。学生に関心を持ってもらうためには教員の交流を行うことがよいと思うので努力してほしい。
 - 教員の交流は昭和57年から始まり，近年では毎年2～3名の交流がある。それにより高専の学生が技科大へ進学してくるケースもあり，そのような学生がさらに広がるように努力していきたい。ほかにもオープンハウスとかいくつかの方法により高専生に対して高等教育を受けるルートの中で高専—技科大は非常に強いつながりがあるということの理解を広めていきたい。
 - 事務系の効率化はIT化を含めて図られてきたが，それだけではなく，競争的資金獲得のための研究内容についても学内でデータを共有化しIT化を図ってはどうか。違う観点からそれぞれの先生がコメントを加えることなどにより，効率化と質の向上がのぞまれ有効化がより進むと思われる。
 - 教育・研究について，学生・教員のデータを共有化し，横のつながりや戦略的な対応ができるようなIT化の計画を検討中である。
 - 対外的な取り組みにHPを活用しているが，反響はどうであったか。また，大学の経営，運営にどう関わってきているのか。
 - 面接試験に来た高専生のほとんどは，HPの「学生が書いた研究室ガイドブック」を見て，あらかじめその研究室の内容を頭に入れていた。
平成21年度の終盤から，より良いHPを作るための検討を開始したところであり，高専生，企業，地域の小中学校を対象とした作り方とか，企業との連携では，大学の研究

内容について、領域の違う中小企業にも理解していただけるようなものとか、いろいろと検討している。

報告事項

- 1 平成 20, 21 年度中期目標達成状況報告書（案）現況分析における顕著な変化についての説明書（案）及び学部・研究科等の現況調査表（案）について

武藤委員より、資料 2-1 から 2-4 に基づき説明があり、審議の結果、資料中の電波高専の表記について修正のうえこれを承認した。併せて議長から、役員会の審議を経て最終決定とし、6 月末日までに文部科学省へ提出する旨の発言があった。

- 2 国立大学法人における会計監査人の選任について

宮崎委員より、資料 3 に基づき説明があり、本学の会計監査人として有限責任監査法人トーマツを選任した旨報告があった。

- 3 第 1 期中期目標期間財務諸表等の推移について

宮崎委員より、資料 3 に基づき第 1 期中期目標期間財務諸表の推移について説明があった。また、丸山監事より、損益計算書等について補足説明があり、16 年度から 21 年度を比較し特徴的なこととして、運営費交付金の減の中、外部資金の獲得に努力し、教育・研究を充実させてきたという特徴が著実に表れていること、人件費においても研究事業が拡大している中で減少できていること、業務実施コストが減少していることについて報告があった。

- 4 災害時における物資の供給等に関する協定の締結について

資料 5 に基づき、新原学長から三国コカコーラボトリング株式会社と災害時における物資の供給等に関する協定を締結した旨報告があった。

以上